

# フィーバ風

(現場)からの風

宮田守男

秋の紅葉を楽しむ季節だが、例年より早いと感じる初冠雪で一気に冬近しい。自家用野菜も一気に弱り、これで採れたてのおいしい

野菜は終わりなのかと野菜畑の片づけに追われている。

美食家の北大路魯山人は随筆で「客の食べ残しを再利用して、工夫を加えて家族に出せば喜ばれるし、魚の骨も人にやればいい」と残肴を使った料理を得意にしたと語っている。物価高騰で食材関係費用も値上がりする中、秋野菜を加工して冬の食材のために冷凍保存するなど知恵を出すのも毎日の生活の楽しみになっている。

仏教には人間の煩惱の中にある三毒の一つに限りなく欲望をむさぼる「貪」があるが、

世界で貧困により十分な食が得られない事例も多く、私たちの食に対する考え方を見直さなくては思ってしまう。

阿部長野県知事は9月の一般質問に県教委と知事部局に分かれて

いるスポーツ関連の行政事務を知事部局に一元化し「観光スポーツ部(仮称)」に改称して移管する方針を示した。詳細は次回以降の県会に条例案を提出するとの事だが、ぜひ大北地域からも積極的な提言を期待したい。

スポーツ関連による

## 長野県が組織する「観光スポーツ部」に期待だ

誘客はこれまでも積極的に取り組んできている。だが各地で同様な企画が乱立していることも事実だ。長野県の特徴と言われる「他の市町村が企画すればわが街も」は著しい成果をあげてはいない。魅

力あるスポーツイベントに求めるものは長野県が有する魅力が多彩なトータル的な企画だ。宿泊プランにしてもスポーツ参加者が求める食事が提供されるのか。関連イベントをどの様に企画するのか。

例えは長野オリンピックで注目された白馬ジャンプ競技場の業務が、新たな部署に移管されるのか。単なるスポーツ施設としての行政位置づけではない観光的要素を展開できるのか期待してしまう。

観客席確保のために大きな敷地を有している。観光的イベントを行うにも、いつもテントなどの仮設物で対応するので常設な施設を要望する声もある。敷地内に県立長野美術館の分館を整備して、長野県の山岳風景やスポーツ関連作品を展示

して長野県の魅力を発信することも不可能ではないはずだ。老朽化していくオリンピック遺産ではない地域の中で求められるエリアになるよう関係者の取り組みに期待だ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



既にジャンプ競技場での国際色豊かな自転車イベントは魅力あるイベントになっている